

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名

愛知県

受託団体名

(財)愛知県教育・スポーツ振興財団(愛知県広域スポーツセンター)

実践テーマ

子どものスポーツ活度の充実

ジュニアスポーツ交流ネットワーク事業

【テーマ設定の理由】

広域スポーツセンターが核となり、指導力資源を持つ特色ある総合型クラブを活用して、これまで触れ合う機会がなかった競技人口の少ないスポーツに、子どもたちが継続して指導を受けられる環境を県内各所に計画的に創出し、試合の機会を含めて子どもたちが継続的、発展的に取り組めるスポーツ交流ネットワークシステムを構築する。

実践クラブ評価委員会

木村 誠(愛知県教育委員会体育スポーツ課主査)

佐野 毅彦(慶應義塾大学大学院准教授)

高橋 義雄(筑波大学大学院准教授)

永井 東一(NPO法人愛知スポーツ倶楽部専務理事)

課題解決のために連携をとった機関・団体

■愛知県教育委員会体育スポーツ課

■豊田市教育委員会

■NPO法人朝日丘スポーツクラブ

■一宮市教育委員会

■NPO法人木曾川文化・スポーツクラブ

■半田市教育委員会

■NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ

【上記機関・団体と連携をとった効果】

- ①県内の総合型クラブを事業連携クラブとしたことにより面での事業展開ができた。
- ②連携クラブ所在地教育委員会の協力により事業の告知がスムーズにできた。

実践クラブ名 NPO法人愛知スポーツ倶楽部

【クラブ概要】

・設立年月日 平成 17 年 5 月 21 日 設立

・クラブ所在地 名古屋市中区栄二丁目9-8

・クラブの特色 かつて(株)表示灯ホッケーチームであった男子ホッケーの名門チーム「名古屋フラーテルホッケーチーム」を運営するクラブ。平成17年に地域の総合型クラブとして独立。フラーテルカップの運営などホッケーを中心に多世代が参加できる事業を展開。

・クラブマネジャーの活動状況 非常勤無給

・会員数(H20.7.1現在) 正会員 80 人 ・定期活動種目数 2 種目

・会費の種類と金額

法人正会員50,000円 個人正会員6,000円 サポーター会員3,000円

・平成20年度総予算額 25,000 千円

◆プロジェクトのねらい

広域スポーツセンターが核となり、企業チームから独立した指導力資源の充実した総合型クラブを活用して県内の各地域の総合型クラブと連携を図り、子どもたち対象のスポーツ普及ネットワークモデルを構築する。

そのことを通して、総合型クラブが運営するトップチームに対する地域での関心が高まり、スポーツを通じた地域の活性化が図られるとともに、連携する総合型クラブにおいては子どもたちの新しいスポーツ環境の創出ができ、連携クラブの地域での求心力の向上につながる。さらには、クラブ間のリーグ戦を展開することによる子どもたちのスポーツ交流、地域交流も促進し、総合型クラブのネットワークによる「面」での地域活性化を推進する。

◆実施概要

○連携クラブにおけるジュニアホッケースクールの展開

事業に連携する3つの総合型クラブにおいて立ち上げられたジュニアホッケースクールにチーム育成指導者を派遣して、子どもたちに新しいスポーツ環境として定期的、継続的にホッケーが楽しめる質の高いスポーツ環境を広げた。その結果、事業実施前は、ゼロ人だった県内小学生ホッケープレーヤを50人以上育てた。

○ジュニアホッケーリーグの運営

子どもたちにゲームの場として、原則月例のホッケーリーグを運営してクラブ間の交流を実現した。また、リーグへの保護者チームの参加も促して世代間交流も広がった。

○指導者の育成

実践クラブ所属指導者の指導スキルの平準化を図るとともに、ホッケーボランティア育成のためのセミナーを連携クラブにおいて実施した。

◆参加者数 実人数50名 延べ約1,600名

◆活動の様子



◆評価

○子どもたちにとっての新しいスポーツ種目への参加環境の創出。

平成19年度時点で愛知県における小学生のホッケー人口はチーム数、競技者ともにゼロであったが、この事業により、現時点で小学生ホッケー競技者50人以上の参加環境を創出した。これは、競技者数で全国6番目に位置する。

○クラブ間のスポーツ交流ネットワークモデル「地域スポーツのクロスオーバーモデル」の構築による活力ある地域づくりの推進

シンポジウムを通して、この事業で構築したスポーツ振興モデルを「地域スポーツのクロスオーバーモデル」として全国に発信した(詳細は実践報告書参照)。また、このモデルを他の1種目の競技に汎用し、連携クラブはホッケーにおいて3クラブ、モデルを汎用した他種目において5クラブのネットワークを創った

本事業の成果

広域スポーツセンターが県内総合型クラブのネットワークの中核となることによって、事業連携が広がり、実践クラブの持つスポーツ資源を県内各地に配給することができた。そのことによって、本県においてはこれまで小学生たちにとって縁のなかったホッケーという競技に参加する環境を創出することができた。

本事業の課題と今後の取組

実践クラブにおいては、デリバリーするコンテンツの中核をなす派遣指導者における指導者レベルの向上及び平準化のための努力がいつそう求められる。広域スポーツセンターは、連携クラブの拡大のために当該事業に関する広報活動にさらに努める必要がある。また何より、今後のクラブ発展支援の観点から外部資源を導入し事業を充実させていくためのクラブマネジメントを普及していく必要があると考える。

(本件問合せ先: 愛知県広域スポーツセンター事業推進室(電話)052-249-2720)